



農業・産業に ミタッチミ



Industry 産業にタッチ

地方版IoT推進ラボに選定

令和元年に経済産業省の「地方版IoT推進ラボ」(第5弾)に選ばされました。地方におけるIoT(モノのインターネット)やAIの活用などの取り組みを、国が専門家の派遣や最新情報の提供等で支援するものです。市では、「直方市IoT推進ラボ」として、中小企業の人手不足の解消や生産性の向上に向けて取り組んでいます。

ポイント1 IoTやAIの技術を導入することにより、市内中小企業の生産性を向上

ポイント2 地元企業の付加価値を増大させることにより、新たな雇用を創出

ポイント3 地域経済の活性化



地方版IoT推進ラボ選定証授与式の様子

地域未来牽引企業

直方市には、地域の特性を活かして高い付加価値を創出し、地域経済への影響力が大きく、成長が見込まれるとして国から選定を受けた企業があります。

★直方市内工業団地の
主な立地企業は
こちらからどうぞ



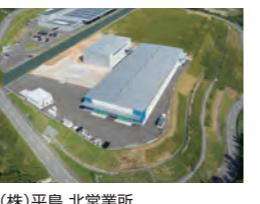
アスカコーポレーション(株)



(株)石橋製作所



(株)九州ハセック



(株)平島 北営業所

Agriculture 農業にタッチ

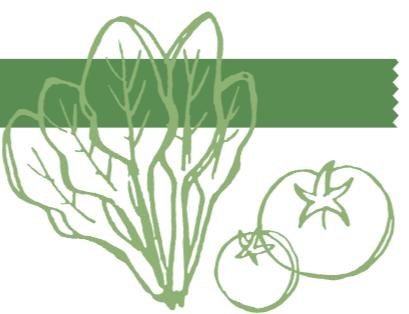
「ふくのこ」生産量日本一!

直方市では、平成30年度から高アミロース米「ふくのこ」を栽培しており、その生産量は日本一となっています(平成30年産)。「ふくのこ」は麺やパン等への加工適正が高く、α化米粉(炊いた米を粉砕したもの)を使うことにより、従来使用されてきた増粘剤やグルテンなどを使わずに、麺やパンを製造することができます。

また、主食用米としては、「パラパラした食感」「型崩れしにくい」等の特徴から、炒飯やピラフ、雑炊等の料理に適しており、博多の老舗中華料理店「福新楼」の炒飯で使用されています。

さらに、レジスタントスター(難消化性デンプン)を多く含むことから血糖値上昇抑制効果や便秘の救世主としても期待されています。

今後、さらなる作付け拡大とともに、「ふくのこ」を活用した食事処や土産品などの商品化を通じて、農家の所得向上や地域おこしにつなげていきます。



地域営農組織の 機能強化支援事業

地域農業の持続的な発展のため、効率的かつ安定的な経営を行える認定農業者を中心とした「担い手」の育成・確保及び法人化、集落営農の組織化を推進しています。



直鞍産業振興センター ADOX福岡

産業支援機能、人材育成機能、EMC評価測定機能を備えています。直方市のみでなく直鞍地域の企業の技術や経営の高度化等、産業の振興に貢献しています。



EMC関連の測定評価を行う大型電波暗室



地方版IoT推進ラボ選定証授与式の様子

直鞍ビジネス支援センター N-biz(エヌビズ)

市が設置した直鞍地区の中小企業・新規創業者のための無料経営相談窓口です。成果が出るまでサポートを行います。

平成29年3月の開設からの約3年間で1,600件以上の相談を受け、その中でも創業に関する相談者79者のうち25者の創業が確認できています(令和2年1月時点)。女性創業者への支援が評価され、経済産業省の「女性起業家支援コンテスト(平成30年度)」で優秀賞を受賞。

売上げアップやアイデア出し、販路拡大や情報発信、創業のお手伝い等、様々な経営に関する相談を受けています。



N-bizアドバイザーミーティングの様子



歴史・文化に ミタッチミ



国指定史跡 筑豊炭田遺跡群

旧筑豊石炭鉱業組合直方会議所
及び救護練習所模擬坑道



明治以降、日本の近代化の流れの中で、直方が重要な地位にあったと知ることができます。麻生・安川・伊藤など炭鉱王が名を連ねる譜事録も残されています。本館建物は明治43年に当時の筑豊石炭鉱業組合が直方会議所として建設したもので、東アジア最古の本格的な救護練習所模擬坑道とともに平成30年10月国指定史跡になりました。

直方藩

江戸時代の前半(1623年から1720年)、直方は黒田官兵衛を藩祖とする福岡藩の支藩の城下町でした。初代福岡藩主黒田長政の四男高政が直方に東蓮寺藩を置き、三代藩主長寛のとき直方藩と改名しましたが、四代藩主長清の子が、福岡藩を継いだため、約百年的歴史を閉じました。



古高取

1600年代の初め豊臣秀吉による朝鮮出兵の際に半島から連れ帰られた陶工によってはじめられた高取焼は、伊万里、萩、薩摩などの著名な焼き物と同じ歴史を持っています。永満寺宅間の地ではじめられ、1614年、頓野内ヶ磯へ移りました。当時最大級の規模と最先端技術を誇り、生産された茶器は多くの茶人や武士たちに愛されました。



藩主長寛のとき直方藩と改名ましたが、四代藩主長清の子が、福岡藩を継いだため、約百年的歴史を閉じました。

レトロ建築群にタッチ

明治から昭和にかけて筑豊炭田の中心都市として栄えた当時の歴史を物語る

【レトロ建築群の見どころ】 国の登録有形文化財 1 2 3 4 5 経済産業省認定近代化産業遺産 6

アートスペース谷尾 (旧十七銀行直方支店)

大正2年頃に建設。東京駅を設計した辰野金吾に由来する「辰野式」の外壁はれんが風のタイル張。現在は直方市美術館別館。

向野堅一記念館 (旧讃井病院)

大正11年に竣工。当初は内科・胃腸科・歯科を備えた総合病院でした。木造モルタル造りの和洋折衷セツジョン風建築。

直方谷尾美術館 (旧奥野医院)

大正2年に開業された皮膚科医院ですが、現在の建物は昭和15年に建て直されたものです。古代ギリシャの神殿を思わせる玄関ポーチ、半円形の応接室など、昭和初期のモダンな医院建築として貴重なものです。

石原商店

大正15年に建てられた豪華な町屋建築で吹き抜けの中二階があります。かつては工場制手工業で、髪飾りを生産していました。

旧前田園茶舗本店

昭和2年頃に建築された格調高い町屋建築です。かつては八女茶などを炭坑の購買部に卸していました。当時の商家の繁栄ぶりがうかがえます。

歳時館

明治31年に建設された炭鉱王・堀三太郎の旧宅を復元しています。広い敷地や庭、純和風の気品のある建物や造作は石炭のもたらした莫大な富を物語っています。